

種 別 : 個人

氏 名 : 横田昌彦

コメント :

4. X3 年度の会計処理

X3 年 3 月 31 日における数理計算 (割引率は 4.0%、長期期待運用収益率は 5.0%) の結果、X3 年 4 月 1 日から X4 年 3 月 31 日までの勤務費用、利息費用及び期待運用収益はそれぞれ、570、540 (=退職給付債務期首残高 13,500 × 割引率 4.0%)、450 (=年金資産期首残高 9,000 × 長期期待運用収益率 5.0%) と計算された。また、同期間における年金資産からの年金給付支払額及び掛金拠出額は 230 及び 810 であった。

E 社は、X3 年 4 月 1 日付けで平均 4.8% の給付水準の引上げを行った。これに伴う退職給付債務の増加額、すなわち過去勤務費用の発生額は 675 であった。

という設例 5 がありますが、利息費用の計算に疑問があります。利息費用を 540 (=退職給付債務期首残高 13,500 × 割引率 4.0%) と計算していますが、×3 年 4 月 1 日付けで給付水準の引き上げを行っており、これに伴い退職給付債務が 675 増加しています。13,500 には 675 が含まれておらず、また、675 は×3 年 4 月 1 日まで割り引かれたものと考えられるため、1 年経過することによる退職給付債務の増加 (利息費用) を計算する際に、675 を含めるべきと考えます。すなわち、利息費用 567 (=退職給付債務期首残高 (13,500 + 675) × 割引率 4.0%) とすべきと考えます。

あるいは、675 が×4 年 3 月 31 日現在の退職給付債務の増加額であるとすれば、その旨を明らかにすべきと考えます。